

114  
A3106  
1



法正再拜過百次奉答并侍

大正十一年四月  
大隈侯爵寄

閣下急心市常但奉如多其賜也先書上申候也  
當所出津と類二公急心、誠心より侍在當地也、亦相身  
の大系係不才要所、并多程業長く耐忍候所、永  
海留し仕合也、猶昔事、此後相当地、業従、深坊  
樂子例、如く申合と、唯、如所、并、引、く、大、固、即  
或、ハ、相、六、一、九、元、位、と、申、出、仕、合、と、実、ニ、誠  
懐と極力急心、不待所、切、年、ハ、當、地、穀、也、少、く、亦、之、後  
深、誠、臨、中、句、ら、買、入、下、水、穀、百、斤、之、元、七、拾、五、錢、分、中、今  
之、六、元、半、より、七、元、位、と、由、り、其、然、亦、舊、無、穀、と、是、ニ、致  
それ、當、今、より、現、在、相、六、七、元、と、立、候、ハ、先、分、り、由  
申、指、ろ、う、と、亦、も、考、へ、ん、と、拘、道、ハ、皆、立、打、と、唱、下、是





備、多摩河の申をたつた故を人抜出で買事ハ出来  
不申杯と云ふ申出るもたつた候に種々苦句の上を策と  
物し、漸く昨の節を臨みの運、解りぬる候事、  
情を當り別立價ハ印ニ去りて是迄洋銀十元と、  
七郎子桶の高事、辨、一、苦句、一、苦句、  
の價をみせし、候、一、領事、一、地、  
園庭、一、候、一、事、一、元、分、  
可之、一、出、一、事、一、候、一、事、  
も、一、事、一、候、一、事、一、候、  
より、一、事、一、候、一、事、一、候、  
当地の事候の、一、候、一、事、一、候、  
ハ、一、事、一、候、一、事、一、候、

事、候、一、事、一、候、一、事、一、候、  
一、事、一、候、一、事、一、候、一、事、一、候、  
と、一、事、一、候、一、事、一、候、一、事、一、候、  
事、一、事、一、候、一、事、一、候、一、事、一、候、  
早、一、事、一、候、一、事、一、候、一、事、一、候、

十月二十四日

津枝正信

99  
97  
98











其邊、第、果、者、う、施、之、意、キ、可、知、リ、也、  
此、地、方、出、産、物、ヲ、採、取、シ、テ、其、他、地、方、ニ、販、賣、ス、ル、事、ハ、  
之、見、ル、所、ナ、ラ、ズ、也、

一、津、浦、海、沿、ハ、地、方、所、以、後、行、ク、多、ク、見、ル、所、  
ナ、リ、ト、モ、其、他、地、方、ニ、販、賣、ス、ル、事、ハ、  
之、見、ル、所、ナ、ラ、ズ、也、  
一、津、浦、海、沿、ハ、地、方、所、以、後、行、ク、多、ク、見、ル、所、  
ナ、リ、ト、モ、其、他、地、方、ニ、販、賣、ス、ル、事、ハ、  
之、見、ル、所、ナ、ラ、ズ、也、  
一、津、浦、海、沿、ハ、地、方、所、以、後、行、ク、多、ク、見、ル、所、  
ナ、リ、ト、モ、其、他、地、方、ニ、販、賣、ス、ル、事、ハ、  
之、見、ル、所、ナ、ラ、ズ、也、

外、都、市、ヲ、得、別、ノ、カ、ニ、テ、寫、入、シ、テ、通、リ、  
結、合、ス、ル、事、ヲ、取、リ、續、テ、可、引、キ、出、ス、ル、事、  
ハ、其、他、地、方、ニ、販、賣、ス、ル、事、ハ、  
之、見、ル、所、ナ、ラ、ズ、也、  
一、津、浦、海、沿、ハ、地、方、所、以、後、行、ク、多、ク、見、ル、所、  
ナ、リ、ト、モ、其、他、地、方、ニ、販、賣、ス、ル、事、ハ、  
之、見、ル、所、ナ、ラ、ズ、也、  
一、津、浦、海、沿、ハ、地、方、所、以、後、行、ク、多、ク、見、ル、所、  
ナ、リ、ト、モ、其、他、地、方、ニ、販、賣、ス、ル、事、ハ、  
之、見、ル、所、ナ、ラ、ズ、也、







414  
A 3106  
4

湖川ヲ朝シテ吸膏ノ道ヲ考メ其ノ事年々其ノ盛ニ益  
 々々トシテ其ノ申ト信申仕ルモノ  
 其ノ道ノ概目長ク其ノ所ニ以テ其ノ事年々其ノ盛ニ益  
 々々トシテ其ノ申ト信申仕ルモノ

才十有也

在之海  
 洋杜口候

第壹号 天津北京兩地漆坊并藍商景況ノ概畧

一 天津地方ノ儀ハ城内外ニテ大小ノ漆坊百六十餘有之  
 其内大ナル者六坊中ナル者三十五坊餘小ナル者百二十  
 餘坊アリ其大ナル者長興、益發、廣聚、德隆、益和、興盛ノ六  
 坊ト云フ是等ハ漆坊ト藍商ヲ兼業スル者ナリ因テ藍靛  
 産出ノ地方ハ人員ヲ派出シ亦ハ藍商ノ入港ヲ待テ買  
 入平常中小ノ漆坊ハ賣捌クヨシテ當地中以下ノ漆坊ハ隨  
 業ヲ成スニヨリ其利當當地從前需用ノ藍靛ハ山東靛則山  
 益最些少ナルヨシ其利當當地從前需用ノ藍靛ハ山東靛則山  
 内ノ産出ニ最モ上品ト是方今第一ノ藍價每百斤近傍  
 出スルモ云々關東靛滿州地方今滿州省内地方ヨリ産出  
 ニ至ルニ天津關東靛滿州地方今滿州省内地方ヨリ産出  
 十ヲ經テ當天津ハ輸入ス此關東靛ハ藍價每百斤凡  
 十元餘ニ至ルト云々此關東靛ハ藍價每百斤凡  
 彼レテ當港ハ兩月輸入ス此關東靛ハ藍價每百斤凡  
 省内地方ヨリ産出ニ至ルニ天津關東靛滿州地方今滿州省  
 藍價内水平府近傍ノ産出ニ至ルニ天津關東靛滿州地方今  
 藍價内水平府近傍ノ産出ニ至ルニ天津關東靛滿州地方今

大正十一年四月  
 限侯壽邸寄贈



ニテ專ラ染用スル者ハ関東稻地ノ両水靛ナリ山東靛ニ  
至テハ品位上等ナレトモ其價ノ不廉ナルニヨリ多分ノ  
需用成サ、ルヨシ此山東靛ノ美良ヲ得ル為ニ用ユルト云  
因テ此地ニテ染用ノ綿織物北京其他ノ地ニ多ク輸出ス  
ヲ專ラト成當地各染坊ニテ毎年染用スル藍量ノ價額凡  
二十万八千元餘大中小染坊平均一坊二千元以下十  
ト見做シ此計拾万五千元以上平均一坊九百元ト見做シ此計拾万  
八千此他當地ヨリ各地へ輸送スル藍靛ニ至テハ當地ノ  
比額スルニ非ルカト想像罷在候得共今其胸算概計ヲ記  
スルヲ得ヌ候得共土人ノ着服ハ都テ濃藍ノ染色ヲ好  
メトモ其染價ノ貴キニヨリ下等ノ人民ニ至テハ薄染ヲ  
着用スル者多ク御坐候

一北京地方ノ儀ハ大小ノ染坊百二十餘坊アリ染坊ハ悉皆城内ノ悉

アリニ都テ其盛大ナル天津ヨリ數等ノ上ニ出ル者ニ御坐  
候其内屈指スル染坊二十餘絹綿兩用ヲ染ルアリ亦天青  
染ヲ專ラトスルアリ此天青染ハ我國極上ノ紺其他百有餘  
ノ染坊ハ悉皆木綿染ヲ專業トス當地從前需用ノ藍靛ハ  
山東靛是ヲ第一トス此山東靛ハ天津港保定靛トス則當  
直隸省內保定府地方ニ産出スル水靛ヲ買入ルノ染坊ハ関東  
靛是ヲ第一トス則天津港ヲ稻地靛ヲ第一トス天津港  
北京地方ノ染坊ハ商人携来スルアリ亦此四種ノ内関東稻地ノ  
靛ヲ專ラ染用ス當地モ天津ト同様ニシテ平常別店ヲ  
設ケタル藍高ナレ因テ各坊一ヶ年染用ノ藍靛ヲ概算シ  
其十ノ六七八年内九十ノ兩月ニ買入レ我十月十一ノ  
三四ハ翌年三四月ニ買取亦小ナル染坊染用藍靛不足ニ  
及ヒ大ナル染坊ニ倚リ藍靛要求スルモ小ナラスヨシ我藍



散 每年其期月ヲ不論平常賣捌ヲ成サハ彼レ便宜ヲ得ル  
而己ナラズ藍靛價外ノ利益モ亦少ナカラサルヘシ  
都テ當地ノ藍價ハ天津ニ比較スレハ水靛百斤ニ付凡売  
元内外ノ高價ニ當ル城內ハ輸入税ノ二種ヲ送費ト當今染坊  
ノ景況ハ昔年ニ比スレハ衰ヘタリト云フ昔年ハ天津通  
州ノ因テ當北京數染坊ヲ開キ業盛ナルニモ當今天津通  
當地各染坊尅ケ年深用スル藍量ノ價額凡五拾万五千元  
余屈指スル者七八千元ニ至ル平均一坊一萬五千元以下  
七此計ニ至ル平均一坊二百五十元ト見做シ以下  
計ニ拾八土人ノ着服染色ニ至テハ專ラ天青染ヲ好シ是  
ヲ貴重ノ服染トス此天青染ハ清國人民一般禮服ニ用ル  
絹ヲ摸擬シタメ我木綿染ナリ則我藍靛ニ至ラハ此適當ス  
路ノ開進其目的モ隨テ其他ノ染色ニ至リテモ悉皆濃藍  
ヲ用ユ當地深用ノ木綿類十ノ七西洋ノ輸入品ヲ用ヒ

ハ寒國ナルニ費用モ西洋木綿ナトテ地厚價廉如キモ多  
ク隨テ藍靛ノ費用モ亦多ナルヲ海軍スルモ多シヨリ皆物  
ノ染地ニ至リテハ德十ノ一ヲ出サルヨシ都テ織染物類ハ  
湖州又ハ河南山東地方ヨリ輸入其時北京ニテ皆入用  
物薄也染隨テ皆染ヲ成ヌ染坊ハ德三四坊アル而已ニ御  
坐候

一 天津表染坊并藍靛ノ景況先般御内諭ノ御一報ヲ蒙リ  
依之正信出張仕立天津北京凡染坊ノ事情藍靛ノ景況實  
地篤ト見聞仕候処其概略前頭ノ通御坐候然ルニ当地方  
ニ於テ深用スル藍靛溶解ノ方法ニ至リテハ支那南部ノ  
地方ト大ヒニ異リ則シ滿州地方ヨリ製出スル石灰ノ兩  
呂ヲ以テ藍靛ノ溶解力ヲ醸シ候則シ此溶解法西洋ニ用ユ  
鞣タニ劣因テ先般ヨリ当地従前ノ方法ニ倚リ我藍靛溶解



加品ノ競量種研究仕其適度ヲ得且彼我両藍靛染力ノ比  
較等及後試驗仕加之当地并北京凡有名ナル二三ノ染坊  
ニ於テ我藍靛ノ染用試驗仕ラセ候処藍靛ノ他良染力ノ  
強量凡充分彼レ等熟知候ニ付則別紙ノ通奏賣ノ廣告仕  
候当地方都テ新規ノ開商ノ儀ハ容易ナラス亦困難ニ不  
少趣候得共今般御公館ノ御保護ニ倚リ各染坊ニ涉リ及  
後染用ノ試驗ヲ任以テ我藍靛ノ声誉ヲ得候ニ付藍商將  
来ノ目的ニ相建速ニ輸入途相閑ケ可申奉存候則巨細ノ  
事情目下御洞察被為在候通御座候

古前條ノ如ク北京天津ノ兩地ニテ一ヶ年染用ノ藍價概  
算洋銀七拾万圓余加之当港ヨリ通州府其他各地輸送ノ  
藍靛殊ニ多数且彼レ等我國藍靛ヲ染用成ハ其利益モ亦  
不少旁以テ当港ノ儀ハ我藍靛屹度輸入ノ目的有之隨テ

一大商路相閑ケ追次御國產盛大輸出相成可申見込御座  
候件前顯景况ノ概略上申仕置候以上

明治十一年才十月

天津出張

天津

領事館御中

津枝正信



口上書

先般私義天津北京ノ兩地、出張益靛賣弘、儀着年仕見  
候処兩地方共至極都合能ク商路相関ケ将来ノ目的モ此  
度相建候并今般一應当地帰港仕候且彼地景况ノ概略別  
紙之通天津領事御館、差出置候并則寫相副此段御届申  
上候以上

明治十一年九月十一月

津枝正信

上海

總領事館御中



第二号

今般約定之津枝洋行、藍釐百七拾五  
桶一桶身洋銀拾元共計洋銀千九百貳拾  
五元、價ある事、確實あり、後日之為証書  
如件

光緒四年九月廿四日 約定人 楊杏橋 撰

第三号

此度楊杏橋儀東洋、高業を営む事あり、  
津枝洋行、名目を用ふ如く、後來本行に  
貸幣又ハ物品の不足ある事あり、都々  
楊杏橋の取扱ふ事、第一、津枝と干涉



せざるべしとのたゞし來年津枝の天津に來るの時  
再の規則を定む可し後日之為証書如件

光緒四年九月二十四日

同 前

第四号

今般約定之津枝洋行、龍青銀百兩一桶ニ付  
洋銀拾元あり物品到着、前代金半額ヲ渡し  
新年に入り清曆二月二十日に至りて代金悉皆相渡  
此可し後日之為証書如件

証據書

津枝先生發点之日より二十一日外の來信  
此書面、其書面、不用之為可し二十日  
内の來信ハ領收可し

光緒四年十月初一日

同 前